

令和 3 年度
福島県 大学生の力を活用した集落復興支援事業

小野町谷津作行政区業務実施報告書

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チーム Part2

指導教員 経済学部国際環境経済学科 米山 昌幸

[目次]	ページ
1. はじめに	1
2. 小野町谷津作行政区の概要	1
2.1. 小野町・谷津作行政区の位置と概観	
2.2. 小野町の人口動態と谷津作地区の人口	
2.3. 地域活性化支援団体の取り組み	
2.4. 取り組むべき課題の設定	
3. 今年度の活動実績報告と評価	4
3.1. 定期的なオンライン・ミーティングの開催	
3.2. 「TERAKOYA プロジェクト」への協力	
3.3. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo2021～Winter～”における地域振興応援物産展の開催	
4. 次年度以降に向けた企画提案	11
5. おわりに	12

1. はじめに

2019 年度から始まった小野町谷津作行政区を担当する獨協大学米山チーム part2 は 1 年目には現地に入り実態調査を実施した。そこで見えてきた小野町の課題や問題点を解決するための提案やアイデアを報告書にまとめ、次年度にそれらに取り組む予定だったが、新型コロナウイルスの影響により 2020 年度の事業申請を見送る形となった。今年度は事業申請をしたが、メンバーの入れ替わりもあり実質一からスタートになってしまい、まずは小野町について学ぶことといったことから始めた。

今年度の米山チーム Part2 は、福永侑眞(代表: 経済学科 2 年)、門井渉(副代表: 国際環境経済学科 4 年)、岡田遥高(経済学科 2 年)、谷口佳太(国際環境経済学科 2 年)、亀井ハンナ(国際環境経済学科 1 年)、坂口諒(国際環境経済学科 1 年)、古川恵理(2020 年度卒業生、2019 年度米山チーム part2 代表)の 2 学科 6 人(経済学科 2 人、国際環境経済学科 4 人)の学生と 2020 年度 OG のサポートメンバー 1 人の 7 人からなるチームである。

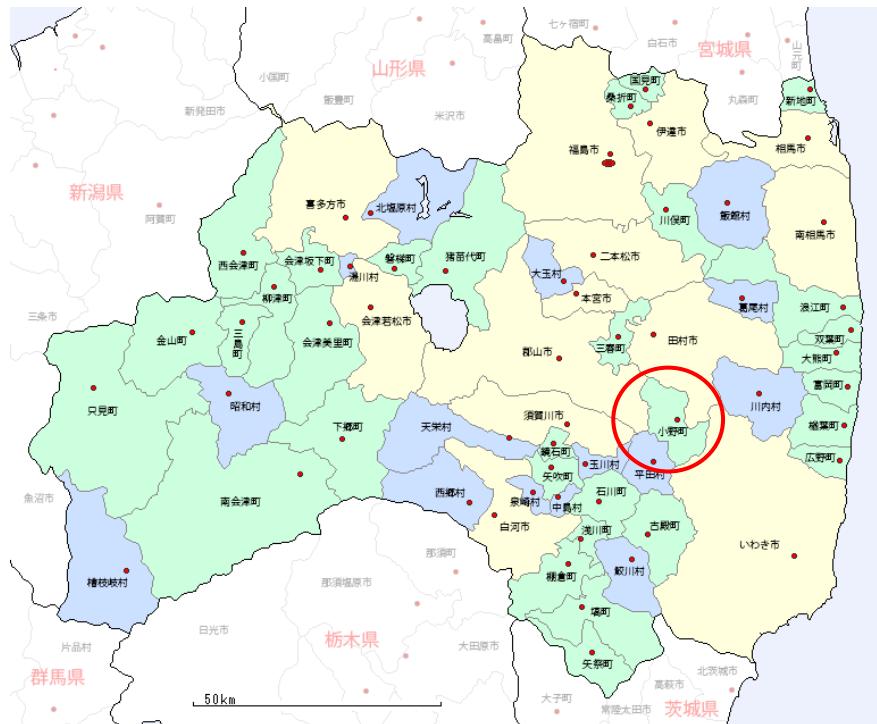
本報告書は今年度行った活動実績をまとめ、報告するとともに来年度の展望を踏まえた企画提案をまとめたものである。本報告書の構成は以下の通りである。まず第 2 節では小野町谷津作行政区の概要をまとめ、谷津作行政区の取り組むべき課題を挙げる。そして第 3 節では今年度実施した活動実績について報告し評価を行う。そして第 4 節では次年度以降に向けた企画を提案する。

2. 小野町谷津作行政区の概要

2.1. 小野町・谷津作行政区の位置と概観

小野町は福島県中通りの東部に位置し、阿武隈山系の中心地に属し、田村郡の南部に位置している。北に田村市、南にいわき市、西に郡山市・平田村と隣接する(図表1参照)。小野町には27の行政区があり、谷津作行政区は旧小野新町に位置している(図表2参照)。

図表1 福島県小野町の位置



[出典]福島県の地図(市町村区分図)(<https://uub.jp/map/fukushima/>)

図表2 小野町の行政区分と谷津作行政区の位置



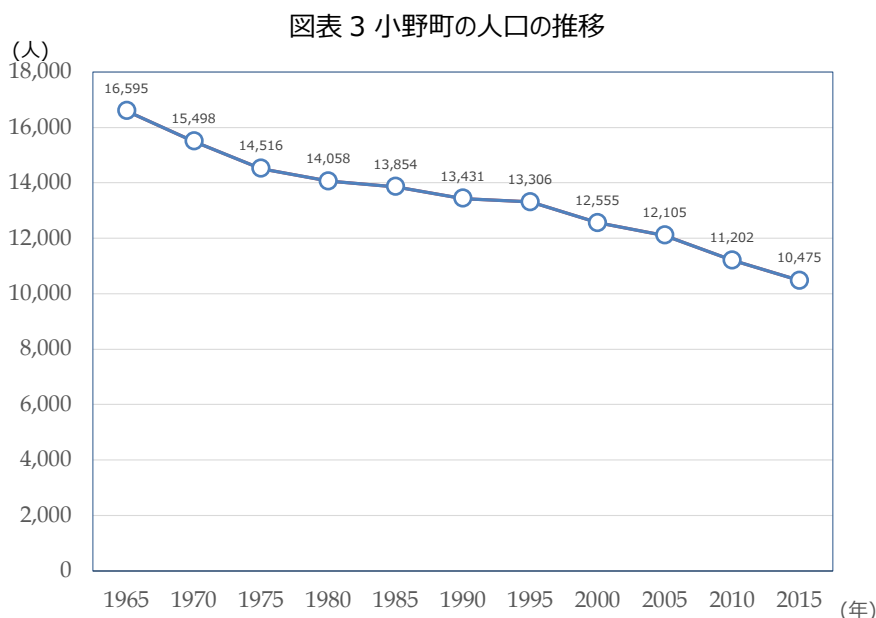
[出典]「都市と田園環境の共生等のあり方について」(事例発表)(小野町地域整備課)(以下のURL参照)
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/29929.pdf>

小野町の沿革は、1889(明治 22)年に、飯豊村、小野新町村、夏井村が誕生し、1896(明治 29)年には小野新町村が小野新町になり、1955(昭和 30)年には、小野新町・飯豊町・夏井村が合併して、小野町が誕生した。図表 2 をみると、谷津作行政区は旧小野新町村に位置している。

小野町は郡山市といわき市のちょうど中間に位置しており、車でのアクセスは磐越自動車道で郡山 JCT から 39km(約 30 分)、いわき JCT から 37km(約 25 分)、電車のアクセスは JR 磐越東線で郡山駅から 50 分余り、いわき駅から 45 分弱の距離にある。このことから住民の生活圏も両方に掛かっている。

2.2. 小野町の人口動態と谷津作地区の人口

図表 3 は、1965(昭和 40)年以降 2015(平成 27)年までの小野町の人口の推移を示したものである。1965 年には小野町の人口は 16,595 人であったが、1980(昭和 55)年頃までは急速に減少して、その後 1995(平成 7)年頃までは緩やかに低下して 1995 年には 13,306 人となり、その後再び減少を加速させて 2015 年には 10,475 人となっている。その後、2020(令和 2)年には 9,672 人と 1 万人を切って、2022(令和 4)年 2 月 1 日時点では、9,166 人(男性 4,552 人、女性 4,614 人)、世帯数 3,388 世帯と、2020 年から 2 年間で 506 人(5%)も減少したことになる。また谷津作行政区の人口は 2020(令和 2)年 1 月 31 日時点で、987 人(男性 478 人、女性 509 人)である。



[出典]『小野町公共施設等総合管理計画』(以下の URL を参照)を基に作成。[原資料]国勢調査による。
<http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/2/kanrikeikaku.html>

2.3. 地域活性化支援団体の取り組み

小野町のまちづくりには行政のほかに総務省の取り組みである「地域おこし協力隊」も

関わっている。小野町には現在 4 人の地域おこし協力隊の隊員が在籍しており移住定住サポートや地元の農業の生産のお手伝いや PR 活動を行っている。また町民の健康づくりをサポートしていたり、小野町の情報発信などもしている。最近の活動としては小野町の黒ニンニクの配布会を実施したり、オンライン上でマルシェを行うなど精力的な取り組みを続けている。また、協力隊で管理している畑での単発の企画として収穫イベントなども行っている。協力隊の 1 人である阿井由加子さんは本チームがミーティングを行う際のメンバーの 1 人でもあり積極的な情報交換を行っている。次年度以降はこの「地域おこし協力隊」ともぜひ協力し様々な地域活性化活動や小野町を盛り上げていく取り組みを実施していきたい。

2.4. 取り組むべき課題の設定

今年度当初から実施してきた定期的なオンライン・ミーティングでは、小野町の様子や現状をお聞きする機会があった。その際に、挙げられていたのは、町外から訪れてくる交流人口の減少である。谷津作地区にとどまらず小野町全体で考えると、リカちゃんキャスルや夏井の千本桜をはじめとした観光施設があるが、コロナの影響もあると思うが、町外にうまく発信ができておらず、結果として交流人口が減少したという印象を受けた。そのため、小野町の良い所などを発信し、町外の人々が積極的に訪れたいと思うようにさせる必要があると考えられる。

また、町内の中学生と話し合う機会となった TERAKOYA プロジェクトでは、中学生との会話から若者の小野町に対する愛着のようなものが低下している印象を受けた。同様に、地域コミュニティの交流も低下しているのではないかという印象も受けた。

やはり、「大地の泉」を活用したまちづくりが本題である以上は、地元の方の協力が必要であるはずである。つまり、小野町全体での町民の意識の変革が必要ではないかと考えられる。以上より、小野町外への発信と小野町民の意識変革が課題として挙げられる。

次の第 3 節では、今年度の活動実績について報告し、振り返って評価する。

3. 今年度の活動実績報告と評価

3.1. 定期的なオンライン・ミーティングの開催

今年度もコロナ禍において、現地に入れずに、オンライン・ミーティングで現地と連携を取って活動を進めた。オンライン・ミーティングは Zoom ミーティングを用いて、月 1、2 回と頻度に不定期で開催した。

新型コロナウイルスの影響もありなかなか対面での交流ができないため、オンラインでのミーティングを積極的に実施することでつながりを絶やさずに交流することができた。本チームの学生 6 人と OG1 人に加え受け入れ担当者である二瓶晃一さん、小野町地域おこし協力隊の阿井由加子さん、地元小野高校の斎藤君、そのお母さんである斎藤直美さんを

基本メンバーとして、時折地元の方を招き行った。

このミーティングを通して、ミーティングメンバーでのそれぞれの情報共有や学生メンバーが小野町について詳しく知ることもできた。またイベントや活動を行う際にメンバー間で話し合うことで対面での活動ができない中でも現地の方との一体感を持って取り組むことができた。開催日と議論内容、参加メンバーは以下の図表 4 のとおりである。

図表 4. ミーティングの内容

日付	議論内容	参加者
5/16 オンライン	事業申請と今後の活動について	学生 3 名、OG1 名、現地の方々 3 名(計 7 名)
5/29 オンライン	申請内容の確認	学生 3 名、OG1 名、米山先生、現地の方々 3 名(計 8 名)
6/19 オンライン	「TERAKOYA プロジェクト」の紹介、学生と現地の方々で日常的にコミュニケーションをとることのできるツール「Chatwork」の活用について、学内イベントにおける小野町紹介資料作成について	学生 3 名、OG1 名、現地の方々 3 名(計 7 名)
8/21 オンライン	小野町における地域活性化の方針、アイデアを考える	学生 4 名、現地の方々 2 名(計 6 名)
9/12 オンライン	新旧学生メンバーの顔合わせ	学生 7 名、OG1 名(計 8 名)
9/25 オンライン	新メンバーと現地の方々との顔合わせ	学生 3 名、OG1 名、現地の方々 2 名(計 6 名)
10/9 オンライン	谷津作地区の秋祭り・谷津作八雲神社祭礼に zoom をつないで参加	学生 4 名、現地の方々 2 名(計 6 名)
11/28 オンライン	Earth Week Dokkyo にて福島県事業の物産展に出す商品決め	学生 5 名、OG1 名、現地の方々 3 名(計 9 名)
12/25 オンライン	物産展の報告と今年の振り返り	学生 2 名、現地の方々 3 名(計 5 名)
1/30 オンライン	来年度以降の活動のおおまかな流れについて、報告書の内容、構成についての確認	学生 3 名、米山先生、現地の方々 1 名(計 5 名)

本活動の評価としては毎回 1 人以上の現地の方が参加してくれて学生メンバー間だけでなく現地の方々との交流ができたことが挙げられる。ミーティングを通じてお互いの近況も確認することができた。また、後述する物産展のようなイベントがあった時に資料を共有し現地の方々と一緒に確認していただくことで実際に PR する上での住民の意見を聞きながら作成することができた。

さらにオンラインのミーティングだけに限定せずオンライン上でいつでも現地の方々と学生が交流したり情報交換できるコミュニケーションツール「Chatwork」を活用し離れた場所でも小野町を少しでも身近に感じることもできた。今後もミーティングを行うことで現地の方々、小野町とのつながりを大切にしていきたい。

写真 1. Zoom ミーティングの様子



図表 5 には、今年度のオンライン・ミーティングの評価と展望をまとめている。

図表 5. オンライン・ミーティングの評価と展望

◆評価	◆展望
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度で 10 回程度のミーティングを行うことができた。 ・学生メンバーだけでなく毎回 1 人以上は必ず現地の方が参加してくれて交流ができた。 ・現地の方とのミーティングを通じて現在自分たちはどういった大学生活を送っている、また小野町はどのような状況なのかといった近況をお互いに確認することができた。 ・大学のイベントなどがあるときその資料などを現地の方々にも見ていただき適切なアドバイスをいただいた。 ・ミーティングを通じて現地の方々と学生がオンライン上で交流したり情報交換できるコミュニケーションツール「Chatwork」を活用することができた。 ・活動に対する具体的なアイデアや話し合いがあまりできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も頻繁にオンライン・ミーティングを実施し、つながりを絶やさないようにしていきたい。 ・現地の方々にもお願いしてミーティングに参加して下さる小野町の方を増やしていく。 ・さまざまな年齢層の住民の話を聞いてみたい。 ・対面でのミーティングを行いたい。 ・日程調整の段取りをもっとスムーズに行う。

3.2. 「TERAKOYA プロジェクト」への協力

今年度はオンライン・ミーティングで地域の方々から依頼のあった「TERAKOYA プロジェクト」(写真2)に協力した。図表6のとおり、「TERAKOYA プロジェクト」とは小野町の中学3年生を対象に放課後学習サポートを行うというものであり、『福島民報』6月28日(月)に記事として取り上げていただいた(写真3)。

図表 6. TERAKOYA プロジェクトへの協力

実施企画名	TERAKOYA プロジェクトへの協力
開催日	2021年6月24日～7月16日の月・水・木・金曜
開催場所	小野中学校会議室(大学生のサポートメンバーは zoom での参加)
企画概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校受験を控える中学3年生を対象に学校終了後の2時間程度の時間を使い集団授業と個別指導を組み合わせながら行う学習サポート ・ 主催は「まちづくり office こまち Vision」 ・ 本チームはこの団体と協力し、本プロジェクトに学習サポートや進路アドバイザーのような立場で参加 ・ 参加メンバーは国際環境経済学科1年の坂口諒、経済学科2年の福永侑真の2名である。数学や英語を中心とした勉強面での指導のほか、受験期の過ごし方や高校生活のアドバイスなどを通じて地元の中학생と交流した。 ・ 中學生からの質問では獨協大学のことについてや進路選択について高校生活で気を付けなければならないことなどを聞かれた。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちは中學生に対して小野町に対する印象であったり、問題点を聞き若い世代だからこそ浮き出てきた課題も発見することができた。

写真 2. パンフレット

自信が
ついた!

なるほど
納得!

へえ～
知らな
かった!

Terakoya
プロジェクト

放課後学習サポート始めます
「今さら聞けない」を聞いてちょう!!

楽しい英語・楽しい数学 受講生募集

低学年でやった勉強がわからないままになっていませんか?
今になって一つ一つ振り返ればわかることもあはず。
私たちと一緒に振り返りながら、わかる!を増やしていきましょう。

日程: 6/24～7/16の月・火・木・金 (受講日は自由に選択可能)
※6/28は休みです。
時間: 学校終了後の2時間程度 (途中入室・退室も可能)
※授業日程により時間が変わります。詳細は下記参照。
場所: 小野中学校会議室
内容: 英語・数学を中心に理科と社会も含めて好きな教科を自習していただき、
個別指導と集団授業とを交えて授業を行います。
講師: 二瓶 晃一、阿井由加子 料金: 無料
対象: 部活動を引退した中学3年生
教材: 教科書や学校で購入いただいた教材などを使用。新たなテキストはありません。

【講座予定日時】

6/24・25・7/12・13・15・16	16:15～18:15
6/29・7/1・8・9	14:45～16:45
7/2・5・6	15:40～17:40

大学生・高校生による
オンライン等での学習
サポートを予定!
勉強や進学など気軽に
質問してみよう!

お問合せ: 小野中学校 ☎0247-72-3355 主催: まちづくり office こまち Vision

写真 3. 新聞に掲載された「TERAKOYA プロジェクト」

福 島 民 報 2021年(令和3年)6月28日(月曜日)

放課後に学び深めて
中3対象 小野で寺子屋事業開始

ネットでも学生も協力

中3年生の学習を
サポートする「TERAKOYA
Project」が、小野町で
放課後の学習サポート事業
を開始した。7月16日まで
の全3回の講座を
通じて生徒が学びを深
めよう。

「子どもたちの学習を
地域全体で支えてい
こうと、町内の一帯をこ
ろのオフィスこまちビ
ル」に、放課後の学習サ
ポートを企画した。

講師には獨協大と獨
協大の学生が中心
人が協力しており、勉
学の仕方や受験の悩み
などについて、オンラ
インで生徒の相談に応
じる。

「独協大の学生が中心
人が協力しており、勉
学の仕方や受験の悩み
などについて、オンラ
インで生徒の相談に応
じる。」

「独協大の学生が中心
人が協力しており、勉
学の仕方や受験の悩み
などについて、オンラ
インで生徒の相談に応
じる。」

図表 7 に今年度の TERA KOYA プロジェクトへの協力の評価と展望についてまとめた。今年度の現地活動ができなかったが、この TERA KOYA プロジェクトに協力することで、現地の子どもたちと交流でき、繋がれたことはとても貴重な体験であった。次年度以降も続けていきたい。

図表 7. TERAKOYA プロジェクト

◆評価	◆展望
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生との交流ができた。 ・数学・英語の指導がスムーズに行えなかった。 ・学生の参加人数が少ない。 ・受験生に対してアドバイスができた。 ・中学生が今小野町に対してどういったことを思っているのか知ることができた。 ・時間が少し短かった。 ・学生はかなり興味持ってくれているようだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間はもう少し長くてもいいのでは ・教える科目をもっと増やし、参加メンバーの得意科目を教えられるようにしたい。 ・参加人数を増やす。 ・参加回数ももう少し増やしてもいいかも ・学生が聞きたいこと、疑問に思っていることを事前に考えてきてくれればより詳しく答えられるのでは？

3.3. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo2021～Winter～”における地域振興応援物産展の開催

獨協大学学内において獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo2021～Winter～”が開催された12月6日～10日のうち、米山チーム part2 は7日(火)～10日(金)の4日間、昼休みの時間帯に、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に参加している本学の他の3グループと合同で、図表8のとおり、地域振興応援物産展を開催した。

図表 8. 地域振興応援物産展の開催

実施企画名	獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”における地域振興応援物産展の開催
開催日	2021年12月7日(火)～10日(金)の昼休み(11:30～13:00)
開催場所	獨協大学学生センター雄飛ホールの北側の内外
企画概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学内において冬季 Earth Week Dokkyo が開催された 12/6～10 日のうち、米山チーム part2 は 7～10 日の 4 日間の昼休みの時間帯に、小野町の PR を目的に小野町特産品を出品した。 ・イベント前には隣接する団地へ本イベントのチラシをポスティングし地域住民へのポスティングをするとともに学内において看板を設置したり宣伝も積極的に行った。 ・小野町の特産品である黒ニンニク、バトンクッキー(えごま・フロマージュ)、ぬれ花豆、燻製たまご、佐藤パン、ぎゅうひの計 7 品(写真 4)を販売した。 ・商品の販売と同時に小野町のパンフレットもお客さんに配布した。
今後の課題・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・期間中は多くのお客様にきていただき無事完売した。 ・ただ、商品への理解不足などの課題や予想を超えた売り上げにより追加発注をしなければならなかったしまったなどの課題も挙がった。次回開催時への課題としたい。

写真 4. 地域振興応援物産展に出品した小野町の特産品

- ・黒ニンニク
ミネラル栽培で育った自慢の黒ニンニク



[出典] Fuku 未来(以下の URL)より引用。
<https://item.rakuten.co.jp/fukumirai/kuroninniku2/>

- ・バトンクッキー
地元小野高校が沖縄県の八重農高校と共同
開発してつくられたクッキー



[出典]メンバーによる撮影

- ・ぬれ花豆
選りすぐりの大粒の花豆を昔ながらの独自の
方法で糖蜜を通し仕上げている



[出典]ふくらボ!「渡久製菓株式会社/小野町柏屋」(以
下の URL)より引用。
<https://www.fukulabo.net/shop/shop.shtml?s=2958>

- ・くんせいたまご
生みたてのごだわりの卵を燻製にした燻製卵



[出典]スモークハウスホームページ「商品紹介」(以
下の URL)より引用。
<https://www.kuntama.com/app/searchGoodsList>

- ・砂糖パン
生地の中にはあんこが入っており、外側は砂糖で
コーティングされている甘いお菓子



[出典]『令和元年度小野町谷津作行政区実
態調査報告書』15 ページより引用。

- ・ぎゅうひ
もち米の粉や白玉粉に、水飴または水や砂糖を練
り込んだもの



[出典]小野町ふるさと暮らし支援センターFacebook(以
下の URL)より引用。
<https://www.facebook.com/317396355339839/posts/1116845212061612/>

写真 5. 地域振興応援物産展の様子



地域振興物産展における米山チーム part2の収支計算書は図表7のとおりである。なお、支出から収入を引いた差額分の宅配料金を令和 3 年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」(実証実験)業務委託料として助成していただいた。

図表 9. 地域振興応援物産展の収支計算書

支出				
商品名	店名	単価	個数	金額
黒ニンニク	生産組合ペルサルレーテ	550	10	5,500
バトンクッキーえごま	シェフリー松月堂	120	10	1,200
ぬれ花豆	渡久製菓	380	10	3,800
砂糖パン	松本菓子店	400	10	4,000
くんせいたまご 4 個入り	スモークハウス	480	5	2,400
くんせいたまご 6 個入り	スモークハウス	680	5	3,400
バトンクッキーえごま	シェフリー松月堂	120	17	2,040
バトンクッキーフロマージュ	シェフリー松月堂	160	8	1,280
ぬれ花豆	渡久製菓	380	20	7,600
サトパン	松本菓子店	400	7	2,800
ぎゅうひ	松本菓子店	400	13	5,200
小計				39,220
宅配料金 12 月 3 日	ヤマト運輸			1,235
宅配料金 12 月 7 日	ヤマト運輸			1,235
合計				41,690

収入(売上)				
商品名	店名	単価	個数	金額
黒ニンニク	生産組合ペルサルレーテ	550	10	5,500
バトンクッキーえごま	シェフリー松月堂	120	10	1,200
ぬれ花豆	渡久製菓	380	10	3,800
砂糖パン	松本菓子店	400	10	4,000
くんせいたまご 4 個入り	スモークハウス	480	5	2,400
くんせいたまご 6 個入り	スモークハウス	680	5	3,400
バトンクッキーえごま	シェフリー松月堂	120	17	2,040
バトンクッキーフロマージュ	シェフリー松月堂	160	8	1,280

ぬれ花豆	渡久製菓	380	20	7,600
サトパン	松本菓子店	400	7	2,800
ぎゅうひ	松本菓子店	400	13	5,200
合計				39,220

図表 10 に今年度の“Earth Week Dokkyo2021～Winter～”における地域振興応援物産展の評価と展望についてまとめた。

図表 10. 地域振興応援物産展

◆評価	◆展望
<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんが一度にたくさん来店した時にスムーズな接客ができなかった。 ・もう少し開催前に宣伝し学生を呼び込みたかった。 ・作ったチラシの出来が悪かった。 ・自分たちも食べたことがないようなものを販売したのでどういった味なのかなどを聞かれたときに具体的なことができなかった。 ・数日間にわたって行ったため販売スタッフとして出る人が足りない日があった。 ・どのくらい売れるのか予想をつけていなかったため商品によっては 2 日目くらいで在庫がなくなってしまった。 ・追加発注をすることになってしまった。 ・学生に限らず、大学職員や地域住民の方など多くの人にお越しいただいた。 ・他地域の特産品や野菜などを見ることができ刺激をもらった。 ・商品を選ぶ段階で現地の方々と話し合いながら決めることができた点はとても良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフのシフト制も検討。 ・現地の方も来ていただき物産展と一緒に販売することができればよりよいのでは。 ・今回の販売数などを考慮して次回以降は見積もりを正確に。 ・もっと効果的で学生の目にひくような宣伝方法やチラシ作り。 ・各商品の特徴やアピールポイントなどを事前に確認しておく。 ・様々な年齢層の方が来ることを想定した商品選びをしたい。

4. 次年度以降に向けた企画提案

今年度の活動は、学生と現地の方々とのオンライン・ミーティングが中心であったが、そんな状況でも「TERAKOYA プロジェクト」への参加や「地域振興物産展」を開催することができた。今年度の反省点を踏まえ、次年度以降に向けた企画を提案する。次年度もコロナの感染状況によるが、状況が許せばぜひ現地に入って活動したい。

(1) 現地調査の実施

今年度は、新型コロナウイルスの影響により現地で活動することができなかった。また、現メンバー全員がまだ小野町に訪れたことがなく、小野町の課題や現状を明確に把握する

ために早い段階において現地調査を実施したい。

(2)TERAKOYA プロジェクトへの協力の継続

今年度は、オンラインで現地の中学生に勉強を教えることができた。現地の学生との交流は今後小野町を活性化していくうえで必要不可欠であり、つながりを少しでも増やすという面においても貴重な機会になるため継続したい。

(3)「大地の泉」を活用した地域住民の交流の場を作る提案

住民・行政・学生が一体となって地域内を活性化させるための交流場所として「大地の泉」を本格的に活用するアイデアを考える意見交換会を開催し、小野町を盛り上げていく手段を話し合っていく。「大地の泉」を活用した交流場所の例としては、足湯やサウナなどの温泉複合型施設などが考えられる。

(4)東堂山や高柴山を利用したハイキング型スタンプラリーの提案

小野町の魅力の 1 つである豊かな自然資源である東堂山や高柴山を利用したハイキング型スタンプラリーを提案する。地元にある自然資源を活用することで地元住民に対する地域資源や地元の魅力を再発見する機会にもなる。地元の人から外部の人まで多くの人に参加できる企画にしたい。高齢者の健康促進やイベントによる交流機会の創出が期待できる。

(5)小野町物産展の開催継続

今年度の物産展では、大学内外から多くの来客があった。小野町のPRの効果は一定程度期待できると言える。次年度は、より多くの人目に留まるように大学内にとどまらず、獨協大学前駅周辺や駅から大学までの道において物産展を開催することも検討したい。

(6)インターネット上での仮想空間を利用した地域内での交流の活発化と外部を対象としたバーチャル観光システムの提案

インターネット上の仮想空間に小野町を再現したモデルを作り、外部からアクセスすることで小野町を訪れているような体験ができるという提案である。オンラインの小野町の名所などをクリックすることでその場所の説明や写真に加え、360°カメラなどを用いて視覚的に体験できるようにしたい。さらに、オンライン上で地元住民が交流できるコミュニティスペースを作り、外部の人が小野町について質問をし、その質問に対して地元住民が回答できるような仕組みも加えていきたい。

5. おわりに

今年度は、チームのメンバーでさまざまな活動を行ってきた。不定期にミーティングを実施し現地の方々との交流を続けたほか、地元の若い世代とも「TERAKOYA プロジェクト」を通じて関わることもできた。さらに物産展を開催し、小野町を大学周辺へ PR することもできた。それぞれの活動に対して改善点も少なくなかったが、現チームの学生は今年度から加わったメンバーで構成されているため、1 からスタートしここまで協力して取

り組むことができたと感じている。

しかし、正直なところ今年度の活動は新型コロナウイルスの影響によって大幅に制限されてしまい不完全燃焼のまま終わってしまった部分は非常に残念である。今後小野町がさらに活気あふれる町になるよう学生としてできること、学生だからこそできることを行い集落支援に力を尽くしていきたい。そして今年度も私たちを受け入れてくださり活動にご協力いただいたこと、二瓶晃一さん、阿井由加子さんをはじめ、小野町の活性化のために尽力する地域の皆さんに感謝を表すとともに敬意を表したい。最後に、本事業を行う上でご協力いただいた多くの関係者の方々に厚く御礼申し上げて結びとさせていただきます。